

III. 視察研修

2020 年度 視察研修先一覧

* は、法人研修として自費参加した教職員

	視察先	所在地	視察日程(月日)		参加者
1	株式会社しんかーす 4年制福祉事業型専攻大学 「スクオーラ帯広校」	〒080-0012 北海道帯広市西2条南12丁目 エスタ帯広東館1F (学長)ピーターホウ(代表取締役)油谷慶一 (連絡)加藤(スーパーバイザー)	9 月	9/17(木) -9/18(金)	小川純子 田中良三
2	学校法人玉成学園 長崎玉成高等学校 「普通科共生コース」	〒850-0822 長崎市愛宕1丁目29番41号 (校長)上村正和 (連絡)鳥越実路(教頭)	10 月	10/15(木) -10/16(金)	薮一之 田中良三 *青木美香
3	国立大学法人神戸大学 人間発達環境学研究科 「国立大学の教育資源を知的 障害者に開放していく方策に 関する実践研究」	〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 (代表)津田英二(神戸大学教授) (連絡)河南勝	11 月	11/11(水) -11/12(木)	杉山章 田中良三 *寺谷直輝

(中止)

視察先：株式会社福祉事業アソシア

所在地：〒904-0100 沖縄県中頭郡北谷町字北 1-10-8

視察日程：1 / 13(水) - 14(木)

参加者：奥谷雪江 田中良三

* 宮原とき子 * 尾頭嘉明 * 谷口幸子

* 斎藤香里 * 斎藤智弘 * 鬼頭美也子

1. スクオーラ帯広校 学校概要

名称	4年制福祉事業型専攻大学 スクオーラ帯広校
所在地	〒080-0014 北海道帯広市西4条南12丁目3 長崎屋帯広店 3F
電話番号	0155-66-6307
FAX 番号	0155-66-6308
学生定員	各学年 10名
学長	ピーター ホウ Peter Ho
サービス管理責任者	油谷 梨紗
障がい福祉サービス	自立訓練（生活訓練）定員 20名

運営会社 [株式会社しんかーず] 会社概要

社名	株式会社しんかーず
代表者	油谷 慶一
所在地	〒080-0013 北海道帯広市西3条南38丁目1-7
電話番号	0155-66-7002
従業員数	92名
業種	<ul style="list-style-type: none"> 障がい福祉サービス（就労継続支援 A・B型、就労移行支援、共同生活援助） 配食サービス
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 栄養管理配食サービス しんかーずランチ 各種障がい福祉サービスの提供

年間行事（平成30年度）

前期

4月2日(月)	入校式 オリエンテーション
6月30日(土)	第1回体験入校 9:45～11:00 会場：スクオーラ帯広校キャンパス 「英語で自己紹介をしてみよう！」担当講師 Peter Ho 第1回平成31年度入校説明会及び個別相談会 ※同時開催
8月4日(土)	第1回オープンキャンパス 13:00～15:30 会場：スクオーラ帯広校キャンパス・とまちプラザ
8月15日～19日	夏休み
8月27日(月)	第1回平成31年度入校検査 願書募集開始
9月14日(金)	願書提出締め切り
9月29日(土)	第1回平成31年度入校検査

後期

10月8日(月)	第1回入校検査結果発表
10月28日(土)	第2回平成31年度入校説明及び個別相談会
11月4日(土)	スクオーラフェスティバル（学校祭）
12月29日～1月3日	冬休み
1月下旬	第2回オープンキャンパス 第3回入校説明会、個別相談会
2月上旬	第2回入校検査 願書募集開始
2月下旬	願書提出締め切り
3月上旬	第2回入校検査
3月中旬	第2回入校検査結果発表 スクオーラ帯広校在学学生 研究発表会

視察研修報告書		(小川 純子)
視察日	2020年9月17日 ～ 9月18日	
訪問先	スクオーラ帯広校	
住所	北海道帯広市西2条南12丁目3 長崎屋帯広店3階	
視察日程	<p><9月17日></p> <p>8:20 中部国際空港発</p> <p>10:05 千歳空港着</p> <p>10:30 JR千歳空港駅発</p> <p>11:05 南千歳発</p> <p>13:12 JR帯広駅着</p> <p>14:00 視察研修先着</p> <p style="text-align: center;"><視察研修></p> <p>17:00 視察研修先発</p>	<p><9月18日></p> <p>11:08 JR帯広駅発</p> <p>13:28 南千歳着</p> <p>15:20 千歳空港発</p> <p>17:05 中部国際空港着</p>
対応者	スクオーラ帯広校 学長 加藤 淳子	
視察内容	<p>①スクオーラ帯広校の説明</p> <p>○2018年4月 4年制福祉事業型専攻大学として開校</p> <p>○2020年9月 校舎移転</p> <p>○2020年度在籍者数(学年定員10名)</p> <p>第1学年 4名 第2学年 9名 第3学年 1名 合計 14名</p> <p>○2020年度活動プログラム(カリキュラムと主な授業内容)</p> <p>第1学年:郷土史、チョークアート、ICT、生活基礎、栄養管理、数学、企業研究、SST、乗馬、ボーカル</p> <p>第2学年:郷土史、チョークアート、WEBデザイン、ICT、生活基礎、栄養管理、数学、企業研究、SST、ダンス上級、ボーカル</p> <p>第3学年:実習前学習、WEBデザイン、ICT、数学、企業研究、SST、ダンス上級、ボーカル</p> <p style="text-align: center;">※障害者福祉、高齢者福祉(集中講義)</p> <p>全学年共通:ペン習字、体育、金銭管理、英語、英会話、資格取得</p> <p>※授業内容としては、地域性が重要であるという認識から、設定しているものが多い。</p> <p>②施設内の見学</p> <p>○校舎移転をしたばかりの様子を見学させていただいた。が、学んでいる学生の様子は落ち着いており、表情もたいへん良かった。</p> <p>○英語の授業を行っているところを参観させていただいた。英単語を学んでいたが、発音にも意識して取り組んでいた。</p> <p>○食堂やパソコン室も参観させていただいた。移転したばかりであり、まだ、全体的に整っているという状況ではなかった。</p> <p>○職員室に隣接する応接室で対応させていただいた。職員室には2名の教員がおり、まだ、今後スタッフの増員が必要であるという話も伺った。</p> <p>○長崎屋という商業施設の奥まった場所にあり、まだ、案内看板等も未設置であったため、場所はやや分かりにくかった。商業施設に設置されており、「公</p>	

	<p>共でのマナーや規範意識の醸成を意図的に推進している。」とのことであるので、解放された雰囲気になると良い。</p> <p>○消防法の関係で各部屋の上部は空いており、授業の内容によっては隣の音がかなり気になるであろうと思われた。</p>
学ぶべき事柄	<p>①学長から課題として、3点の話があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながる:適切な支援を推進するためには幼少期からの関係機関と連携し連続性を保持すること。 ・つなげる:企業・福祉関係機関との連携を推進し就労につなげること。 ・ひろげる:切れ目のない一貫した支援の充実のためには、個に応じたきめ細かく丁寧な指導が必要である。常駐スタッフの拡充が求められる。 <p>この3点は、重要な観点であることは勿論であるが、それを分かりやすい「ひらがなの合言葉」として表し、課題としているということは、他の職員にも伝わりやすいと思った。</p> <p>②商業施設の一角に設置されており、駅にも近く通学しやすい。また、人のかかわりも自然と多くなるであろう。さらに、生活するということを意識しやすいのではないかと思う。</p> <p>③実際の授業では見ることができなかったが、「体験を通して働く意味と人生の楽しみを見つける」として「文化・芸術・専門課程カリキュラム」が用意されている。講師陣を見ても、それぞれの道の専門家が名前を連ねており、非常に興味深いと思った。</p> <p>④理念は「人生を自分で切り開くための4年間」、教育方針は「自分で気づく」「仲間の大切さ」「本物に触れる」「就職先を選ぶ」の4点であり、今後の障害のある学生の学びの場として実践が積み重なっていくことを期待する。</p>
感想・その他	<p>コロナ禍の中、北海道への視察研修ということでやや緊張感があったが、「4年制福祉事業型選考大学」への視察は初めてあり、大きな期待をもって参加させていただいた。</p> <p>スクオーラ帯広校は、2018年度に開校したばかりで、さらに、視察研修に伺った9月に校舎を移転したばかりということで、まだ、軌道に乗っているという印象ではなかった。が、学長さんのお話を伺っているうちに、その一生懸命さはとても強く伝わってきて、今後の運営に期待をするとともに、応援していきたいと思った。</p> <p>自分自身は不勉強で障害者自立訓練【生活支援】・就労移行支援「4年生福祉事業型専攻大学」の在り様については、分からないこと、知らないことばかりである。が、この専攻大学を地域に根差した、障害のある学生の学びの場としていくためには、さらにいろいろな分野の専門家の協力が必要となるのだろうと思った。障害学生について、大学としての運営について、また、福祉の関係との連携についてなど、学長さんが課題とされていたことが課題のままでなく、どこまで、どのように実現されていくか、今後を見ていきたいと思った。</p> <p>「つなぐ」ということが自分にとっては大きな課題である。顔と顔をつなぐ、手と手をつなぐ、言葉と言葉をつなぐ。つまり、点と点をつなぐことが大事であると思っている。点と点で線になり、線と線で面になる。面になれば、大切な子供たちが落ちていかないように支えることができると思っている。</p> <p>ありがとうございました。</p>

2. 長崎玉成高校

(主に普通科共育コース)の概要

1) 学校(事業所)名:長崎玉成高等学校	2) 所在地:長崎市愛宕1丁目29番41号
3) 法人名:玉木学園	4) 学校長名:上村 正和 5) 担当者名:鳥越 実路
6) 設置年度 明治25年 創立 平成21年度 普通科「共育コース」設置	
7) 主な沿革	
<p>明治 25.5.15 長崎女子裁縫学校を設立 39.3.1 私立玉木女学校と改称 15.7.2 玉木職業女学校となる</p> <p>昭和 9.4.1 玉木女学校と改称 23.4.1 玉木女子高等学校設立</p> <p>平成 19.4.1 長崎玉成高等学校男女共学とする。 21.4.1 普通科「共育コース」設置 29.4.1 長崎玉成高等学校附中学部設立 (共育コース6年一貫教育を目指して)</p>	
【主な受託事業】	
平成18・19・20年度	長崎県指定「私学活性化事業」
平成21年度	文部科学省「高等学校における発達障害者支援モデル事業」
平成22年度	文部科学省「特別支援教育総合推進事業」
平成23年度	長崎県指定「私学魅力アップ事業」
平成24・25年度	文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」
平成25・26・27年度	文部科学省 「インクルーシブ教育システム構築事業(モデルスクール)」
平成26・27年度	文部科学省「キャリア教育・就労支援等の充実事業」
平成29・30年度	文部科学省 「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 (特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業)
平成30・令和元・2年度	長崎県指定「学力をパワーアップ私立学校実践支援事業」

8) 設立（設置）の趣旨・目的

【玉木学園の創設】

創立者・玉木リツ先生（1855～1944）は、小さい頃から、習字・裁縫・千家裏茶道・逸翁流生花を学び、茶花二道の奥旨を得た。明治17年（1884年）上長崎女児小学校の教員を拝命して勤務していた頃、上海へ遊学し欧州列国婦人の教養と社会的地位の高さをつぶさに見聞するに至り、日本婦人の現状をかえりみて、その教育と地位向上の必要性を痛感した。帰国して女子実業教育に挺身することを決意し、明治25年（1892年）4月長崎に帰り、長崎裁縫女学校を創設した。

【普通科「共育コース」設置】

高校進学率が上昇するのに伴い、本校においても基礎学力が十分でなく、一斉授業についていけない生徒が増え、個別指導でも十分に補いきれない実態があった。また、近隣中学校においても様々な特性を持ち学習面で著しい困難を抱え、通級による指導を受けている生徒が増加していた。そこで平成18年度から20年度までの3か年間長崎県指定の「長崎市私学活性化事業」として、まず、教職員の意識改革・スキルアップを図り、平成21年度に「心因性不登校及び発達障害の傾向がみられる生徒」の教育の実践を目的に全日制普通課程「共育コース」を設置した。

9) 2020年度在籍者数（詳細は後述）

校種・学年		生徒数		
		女子	男子	合計
中学部		17	27	44
高 校	1年	95	54	149
	2年	80	53	133
	3年	79	43	122
	計	254	150	404
専門課程		71	5	76
全体計		342	182	524

3.

10) 2020年度活動プログラムと主な活動（授業）内容

普通科「共育コース」教育課程

教科	1年	2年	3年	合計	共育コースの特色ある科目（学校設定科目） <科目のねらい・目標> ◆ 社会人入門講座 ・電卓機能を駆使して、正確かつスピーディーに入力できるようになる。 ・全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験普通計算部門1級から3級に合格する。
国語	4	4	4	12	
地歴	2		6	8	
公民		2		2	
数学	3	2	2	10	
理科	2	3	3	8	

保健体育	4	3	3	10	◆ ベーシック ・基礎基本の定着を目指す ・50分間授業に集中する態度を育む ・やり遂げる喜びの体験 ◆ SST、LST ・新しい自分に気付く ・相手の気持ちを思いやる ・人間関係をスムーズに築く ・コミュニケーション法を学ぶ ・人とのつながりを深め、物事を解決する ・社会に通用するスキル・マナーを身につける		
芸術	2			2			
外国語(英語)	3	4	4	11			
家庭		2		2			
情報	2			2			
学校設定科目	研究	社会人入門講座	2	2		4	
		ベーシック	3	3		3	9
		SST	1	1			2
		LST				1	1
		職業訓練		2		2	4
総合的な探求	1	1	1	3			
ホームルーム	1	1	1	3			
合計	30	30	30	90			

◆ 職業訓練

- ・長崎玉成高等学校共育コースのキャリア教育の充実を図り、将来設計の一助にする。
- ・長崎玉成ベーカーリー社として設立し、「生徒」ではなく「社員」としての恒常的職業訓練の場として、経営・運営に関わる業務の一連の学習を体験させる。総合的な知識と技術を習得させ、会社の経営と管理について理解を深めさせるとともに、生産技術や企画力や管理能力などを身につけ、実践的な能力と態度を育てる。
- ・共育コース在籍者全員が運営に参加することにより、協力体制を構築し、社会性やコミュニケーション能力を高める。

11) 特徴

「共育コース」は、中学校時代にいろいろな悩みを抱えた生徒や、発達の偏りがみられる生徒たちが「学び直しの場」「居場所探しの場」として入学してくる。まず、事前に基礎データを把握するため、入学生全員に対し「入学前親子面談」や「中学校訪問」を実施し、個人カルテを作成している。

入学すると普通科としての必修科目や選択科目に加えて、社会性やコミュニケーション能力を高めるための学校設定科目を学ぶ。選択科目の概要は10)に示しているとおりである。また、手厚い指導を目的に、1年生においては1クラスに担任・副担任・学習支援員と3名の教職員を配置している。

また、生徒たちは皆それぞれが特性を持っているので、クールダウンのための部屋やそのために必要な時間は確保するが、特定の生徒を抜き出した通級指導は実施していない。医療機関や福祉機関と繋がっている生徒も多く、関係機関との連携も積極機に取り組んでいる。

スクールカウンセラーについては3名配置し、各スクールカウンセラーには週1回ずつ勤務していただき、生徒や保護者のカウンセリングを実施してもらっている。その結果については、助言を含めて報告していただき、その後の指導の重要な指針として活用している。

本校教員の多くが自主的に特別支援教育の免許取得を目指し認定講習を受講している。また、これまでの12年間、転勤のない私立高校で積み上げてきた実績により、共通理解や共同的な指導等、組織的に取組める体制が出来ている。

12) 課題

将来の居場所や自立と社会参加に向けた進路指導が高校としての重要な責務である。進学においては、4年制大学、短大や専門学校と志望がさまざまであるが、学力の定着という根本的な課題がある。就職に向けては、一般的な学卒求人での就職ばかりでなく障がい者手帳を取得しての就労支援の他、就労移行支援事業所等の社会福祉サービス事業の利用の支援等、生徒の特性に応じた対応が求められる。

心因性不登校だった生徒たちへの対応に苦慮する場面も多い。心因性の不登校である生徒たちは発達障害を持っていることも多く、孤立していたり自己肯定感も弱く、自傷行為やスマホ依存・ゲーム依存が強い場合もある。中学時代の生活習慣を改め、学校に登校することから始めたいという思いがあるものの、本校に入学したからといってすぐに登校できるようになる生徒ばかりではない。日常の業務に加えことある毎に担任を中心に、生徒との面談、保護者への連絡、家庭訪問、医療・福祉機関との連携等実施しているため、負担が大きくなる傾向がある。また、年度末に向けて出席数や欠課時数が進級や卒業条件を満たすことができない生徒も多く、進級・卒業させるために粘り強く時間をかけた指導が必要になる。

4. 〔参考〕令和2年度生徒数（5月1日現在）

学年	組	科	生徒数		
			女子	男子	合計
中学部		1年	6	11	17
		2年	9	8	17
		3年	2	8	10
		中学部合計	17	27	44
一年	1	普通科共育コース	11	14	25
	2	普通科共育コース	10	15	25
	3	調理科	14	14	28
	4	医療福祉科	12	8	20
	5	衛生看護科	22	3	25
	6	衛生看護科	26	0	26
		合計	95	54	149
二年	1	普通科共育コース	9	17	26
	2	普通科共育コース	9	17	26
	3	調理科	14	9	23
	4	医療福祉科	9	7	16
	5	衛生看護科	39	3	42
		合計	80	53	133
三年	1	普通科医療進学コース	2	4	6
	2	普通科共育コース	7	12	19
	3	普通科共育コース	7	12	19
	4	調理科	12	7	19
	5	医療福祉科	5	6	11
	6	衛生看護科	46	2	48
		合計	79	43	122
高校合計			254	150	404
専門課程		1年生	30	4	34
		2年生	41	1	42
		合計	71	5	76
全体合計			342	182	524

視察研修 学校法人玉木学園 長崎玉成高等学校普通科（共育コース）
2020年10月16日(金)



共育コース概要説明



職業訓練見学



パン工房でのパンの製造（3年生）



LST ソーシャルスキルトレーニング（3年生）
テーマ「確認しよう！社会人への心構えと働き方」



グループワークで意見を出し合いながら



パンの校内販売 週2回全校生徒が12:40に
列を作って買い求める。1個100円



販売するのも玉成ベーカリー社の社員（3年生）

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0;">(藪 一之)</p>	
視察日	2020年 10月15日 ~ 10月16日
訪問先	学校法人玉木学園長崎玉成高等学校
住所	長崎県長崎市愛宕1丁目29番41号
視察日程	<p>10/15(木) 12:20 中部国際空港発-13:35 福岡空港着-地下鉄でJR博多駅-14:55 JR博多駅発-16:55JR長崎駅着-17:15 ホテル着</p> <p>10/16(金) 9:50 視察先到着、10:00 校長挨拶、10:10~40 自己紹介・共有コース概要説明、10:50~12:15 授業見学、12:15~12:40 質疑応答、</p> <p>13:00 視察先出発、15:19JR長崎駅発-17:13JR博多駅着-地下鉄で福岡空港-18:30 福岡空港室-19:50 中部国際空港着</p>
対応者	上村正和(校長)、上戸綾子(教頭)、 鳥越実路(教頭)、山口悠里(普通科共有コース主任)
視察内容	平成21年度より心因性不登校及び発達障害の傾向がみられる生徒を対象として設置された全日制普通科「共有コース」の実践について学ぶ。当日は普通科共有コース概要説明を聞き、授業見学(職業訓練「パン工房」作業見学、LST・ソーシャルスキルトレーニング参観)、質疑応答、意見交換を行う。
学ぶべき事柄	私学経営に積極的に特別支援教育を取り入れ、とかく教育制度の狭間に置かれる不登校児や発達障害のある生徒のためのコースを設置していること。教職員の皆さんはそのための研鑽に三年間要したと伺ったが、他の「衛生看護科」、「調理科」等と並んで生徒・保護者にとって魅力ある選択肢を提供している。小規模(各学年5,6クラス)、かつ各課程が少人数編成なことあつてか、社会性を育みやすい教育環境・集団が保障されていることが短い見学時間のなかで授業風景や生徒の笑顔から感じ取ることができた。
感想・その他	自分の特性や課題が理解され、適切な教育的指導が用意されている「共有コース」の存在は、普通校とも支援学校とも違う選択肢として生徒にはとても貴重な存在だと感じた。職業訓練の玉成ベーカリー社のパン作りと販売は学年ごとの役割分担(2年生が形成した生地を3年生が焼いて販売、など)が自然と縦割り集団の関係も意識させる効果がありまさしく共に育つだと思ふ。普通科として高校の教科書を使って授業をしていると聞き教科の授業についていけない生徒への指導やフォローも大変だと察するが、説明を受けてカリキュラムの中で基礎学力の定着やSST・LSTに重きを置きたい学校の姿勢が強く感じられ共感できた。

視察研修報告書	
(青木美香)	
視察日	2020年10月15日～10月16日
訪問先	学校法人玉木学園長崎玉成高等学校
住所	長崎県長崎市愛宕1丁目29番41号
視察日程	10/15(木) 12:20 中部国際空港発-13:35 福岡空港着-地下鉄でJR博多駅-14:55 JR博多駅発-16:55JR長崎駅着-17:15 ホテル着 10/16(金) 9:50 視察先到着、10:00 校長挨拶、10:10～40 自己紹介・共育コース概要説明、10:50～12:15 授業見学、12:15～12:40 質疑応答、13:00 視察先出発、15:19JR長崎駅発-17:13JR博多駅着-地下鉄で福岡空港-18:30 福岡空港室-19:50 中部国際空港着
対応者	上村正和(校長)、上戸綾子(教頭)、鳥越実路(教頭)、山口悠里(普通科共育コース主任)
視察内容	平成21年度より心因性不登校及び発達障害の傾向がみられる生徒を対象として設置された全日制普通科「共育コース」の実践について学ぶ。当日は普通科共育コース概要説明を聞き、授業見学(職業訓練「パン工房」作業見学、LST・ライフスキルトレーニング参観)、質疑応答、意見交換を行う。
学ぶべき事柄	「共育コース」には中学時代に様々な悩みを抱えてきた生徒が多く通っているが、その背景には生徒たちの発達の課題があるようだ。本学校は、そういった生徒の「学び直しの場」として特色ある教育プログラムを展開している。例えば基礎学力を個々の理解度、習熟度に合わせてつけるためにプリント学習を実施している。一斉授業ではなく個のペースで取り組めるので本人にとってもつまづきポイントが把握しやすいメリットがあるようだ。一方で、本コースが支援学級としてではなく「普通科」として位置づけられているために必修科目には高校数学等も含まれる。1クラスに3名の教員を配置することで学習面、精神面のフォローが行き渡るようになっていた。キャリア教育にも力を入れていた。SSTやLSTが時間割に組み込まれていること、学内にパン工房を持ち2、3年生が経営・運営に携わっていることなどだ。どの生徒も個人差はあるが卒業後のビジョンを持ち、目標達成に向けひたむきに取り組む姿が見られ、1年生から日常的に職業訓練等を行っている成果と思われた。しかし休み時間になると楽しそうな会話が飛び交い、笑顔で挨拶してくれる無邪気な生徒たちの姿に触れ、純粋に高校生活を楽しむ気持ちや充実感が伝わってきた。彼らは共育(共に育つ)が意味する通り、信頼できる仲間や理解ある教員など身近な人たちとの関わり合いの中で学び、育っているのだろう。改めて学び合う経験、自分らしさを磨く時間の大切さを学んだ。
感想・その他	近年、学校現場とりわけ普通学級に在籍するグレーゾーンの児童、生徒に対する支援や進路指導の難しさが頻りに話題となる。長崎玉成高校のような特別支援の体制が整う高校が今後増え、境界域の子どもたちの新たな進路先として確立していくことに期待したいと思った。

3. 神戸大学

1)学校名:神戸大学大学院国際人間科学部	2)所在地:兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11 神戸大学大学院人間発達環境学研究所
3)事業名: 神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム	4)代表者名::津田 英二 5)担当者名:河南 勝・黒崎 幸子
6)設置年度:2019年度(2019年7月～2020年2月)2020年度(2020年7月～2021年2月)	
7)沿革 2018年:文部科学省の生涯学習政策提起 全国で14ヶ所の委託事業推進と有識者会議を開催 2019年3月:「障害者の生涯学習の推進施策について」有識者会議のまとめが報告される 2019年5月末:全国の委託事業の1つとして神戸大学の事業も認可される 2019年7月:文部科学省「障害者の学びに関する当面の強化策」を提起 神戸大学の事業も「大学における知的障害者等の場づくりに関する実践的研究」と位置づく 2020年7月:「学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム構築事業」を兵庫県が受託し、その一環の事業として神戸大学の事業も位置づく。	
8) 設立(設置)の趣旨・目的 大学の資源を効果的に活動することで、言語によるコミュニケーションが可能な知的障害者に対して、学ぶことの楽しさを実感し、自己理解や他者理解、社会認識を深め、豊かな人格を形成する機会を提供する。 大学における同様の取り組みのモデルとなるよう、どのようなプログラムや条件設定により知的障害者の学習意欲が喚起されるのか、大学の社会資源をどこまでどのように活動できるのか、持続可能な汎用可能な事業にするための条件は何かを明らかにすることを目的に実施している。	
9) 2020年度在籍者数 2020年度在籍者数:9人	
10) 2020年度活動プログラムと主な活動内容 週3日(火、水、金) 17:00～8:30 授業 18:50～ふりかえり等 20:00 プログラム終了 火曜日「障害共生教育論」一般学生の履修する授業に参加し、話し合いながら共に学び、あるいは、お互いに学び合う授業を創る。 水曜日「よりよく生きるための科学と文化」心理学、哲学、音楽学、音楽療法学、自然科学、教育学、宇宙物理学などを専門とする大学教員が、本プログラムのための特別授業をする。 金曜日「話し合う!やってみる!」 やってみたいことを話し合っ計画を立てて、実行する。体を動かす活動やミニ研究活動、創作活動などを神戸大学生も一緒に取り組む。また、外部講師を招いて写真教室や体験新喜劇にも取り組む。課外活動:ESD をテーマにしたワークキャンプに希望者が参加する。	
11) 特徴 ・神戸大学の施設設備の提供や履修生制度活用など大学の資源を活用し、当局の支援を得ている。 ・大学教員の専門性を活かした学習プログラムを提供し授業者も新たな学びになっている。 ・神戸大学生の協力を得て、学び合う仲間、同世代の青年としての交流ができ、楽しく学べている。	
12)課題 ・よりよい学習プログラムにしていくための検証をし、汎用可能な取り組みにしていくこと。 ・全国のモデルとなる事業になるために、どこでも実践可能な持続できる仕組みにしていくこと。	

視察研修報告書		(杉山章)
視察日	令和2年(2020)年 11月 11日	
訪問先	国立大学法人 神戸大学 (国際人間科学部) ヒューマン・コミュニティ創生研究センター	
住所	〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 1-2-1	
視察日程	11月11日 16～17時:調査、17～18時30分:講義の参観、18時30分～19時:調査	
対応者	河南勝(コーディネーター), 黒崎幸子(サブコーディネーター)	
視察内容	<p><事業調査(聴き取り)></p> <p>専任者として、コーディネーター1名(1日/週)、サブコーディネーター1名(3日/週)を確保している。コーディネーター、サブコーディネーターは、特別支援教育や児童福祉の専門性がある。学部生のメンターを募集し、受講生と共に講義に参加している。メンターへの研修は実施していない。</p> <p>昨年度、聴講生制度を改正し、神戸大学の正規の学生(履修証明制度を活用し「特別な課程」の履修生:授業料は5万円)として、知的障害のある学生を受入れることができるようになった。非常にチャレンジングな作業を事務局が積極的に取り組み実現した。7月から学生募集をし、9月に学生選考、2月上旬に修了式を行っている。運営は、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、附属特別支援学校、大学当局等で地域連携コンソーシアムを構成し行っている。授業は、週に3日間、夕方より開講される。火曜日の「共生教育論」は、一般の学生と共に受講する。水曜日は大学教員がオムニバスで講義を担当している。金曜日は、大学が運営する「のびやかスペースあーち(サテライト施設)」にて課題を学生が設定し、フィールドワークを中心に行っている。</p> <p><講義参観></p> <p>「音楽と人との関わりの歴史」太田美佐子氏(神戸大学大学院)受講者8名、メンター4名:講義90分の後に、受講生とメンターによる講義の振り返りが行われる。</p>	
学ぶべき事柄	学内においては、講義をする大学の教員の協力的な姿勢と共に、事務職員が学内の制度を活用・改変し受入れる仕組みを作った。また学外の組織を交えて、コンソーシアムを作っている。内外の組織と共に取組み、持続可能性を追求している。	
感想・その他	現状の枠組みを改変することで、最大限にできることに、取り組んでいるという印象を受けた。継続的な取組となるよう学内外の仕組み作りができていてと感じた。	

5. コンファレンス事業

5-1. コンファレンス事業 -成果報告-

- ① プログラム
- ② 記念公演
- ③ 三年間のまとめ

5-2. コンファレンス連動企画事業